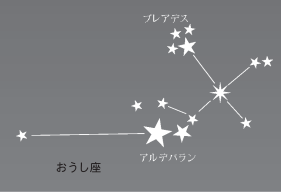
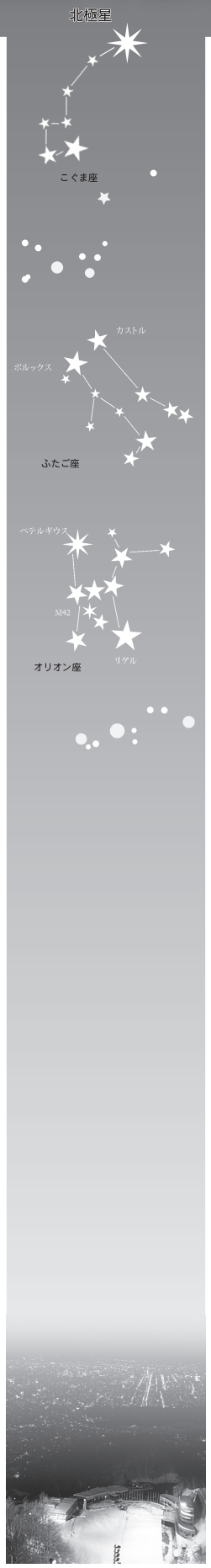


ー医師会長エッセイー

ポラリスを仰ぐ北の大地から



30年

余市医師会　会長　小嶋　研一

私が、余市医師会に入会したのは平成元年です。札幌愛育病院消化器内科に４年ほど勤務し、当時の北大第三内科宮﨑教授のお許しを得て父の運営する小嶋病院に勤めました。同時に医師会にも入会いたしました。当時の余市医師会長は私の父である小嶋敏之(今も健在です)でした。32歳の私は医師会に対しての興味はほとんどなく、月１度の全員協議会の参加にも積極的ではありませんでしたが、温かく迎えてくれました先輩方との会話やゴルフや麻雀等のレクリエーションを通じて医師会活動に興味を持ち始めました。その当時の医師会役員の多くの先生は鬼籍に入られました。現在は父以外にも２名の元役員の先生が元気に全員協議会に参加されております。

余市医師会は伝統的に横のつながりが強く病診連携や勉強会も盛んに行っております。特に私が入会してすぐにお誘いを受けた勉強会「余市カンファランス」と言う医師会員自らの症例発表や治験、並びに学術発表をする会を年２～３回ほど行なっております。誘われて最初の会で何か発表しなさいとのことで、余市にて経験いたしました「輪状膵の一例とERCPについて」を発表いたしました。それ以後、現在も継続しており80回を超えました。今後も続けていこうと思います。余市医師会は北後志５町村が医療圏です。現在３万人程の人口ですが年々人口減少が進んでいます。2025年問題に向けて当医師会でも地域医療構想、地域包括ケアシステムの充実に向けて取り組んでいます。幸い余市医師会では一般二次救急については余市協会病院に対応していただいています。またこれから増加する認知症に関しては林病院に対応していただいており、各開業の先生方は大変助かっております。今後もますます病診連携、診療所間連携の充実を図り、会員一同、地域医療の崩壊を招かないように努力していきたいと思います。今年は医師会長として３期目となります。30年、光陰矢の如しでした。

近況報告

胆振西部医師会　会長　坪　　俊輔

今年も早４月に入り新年度となりました。若い頃でしたら目標を一新してさあ頑張るぞ、となるところですがこの年になるとそうも行きません。あれもこれも今年度中に片づけなければと気がせいたり、今は元気でやっているが来年度も同じように元気でいられるのかなと心配になったりで～。当面の目標は体調の現状維持といったところです。

さて当胆振西部医師会は医師の高齢化もあり会員数の減少に歯止めがかかりません。果たして５年後に当医師会が現状でいられるのか心配です。若手の先生方の参加を切に希望する次第です。室蘭を中核とする西胆振医療圏では、稲川会長を始めとする室蘭市医師会のご尽力により４月からクラウド型高機能EHR、地域医療介護連携ネットワークシステム“スワンネット”がスタートしました。伊達および周辺地域は介護・福祉事業が地域経済の一翼を担っているという側面もあり、このスワンネットの有効活用が重要と考えております。

さてプライベートでは、趣味の投げ釣りを４月中旬に開始し、早々に50センチオーバーを含む大型のクロガシラガレイやアブラコなどに恵まれ釣り仲間と美味しくいただきました。しかし例年この時期はまだ水温が低く、釣果を多くは望めないのが通常です。これも地球温暖化の影響なのかな？そう考えるとちょっと不安にもなります。もう一つの趣味である囲碁は、上達がまったく止まりネット碁で勝ったり負けたりを繰り返しています。先日などはほろ酔いでネット碁を打っていましたら、突然降段の表示が出て慌てて履歴を確認したところなんと７連敗もしていました。それ以後“酒気帯び囲碁禁止”としております。さて、もう少しで３歳の隣町の孫娘は、私の食事の作法がなっていないなどと説教をするおしゃまさんになりました。この子が私の囲碁の相手をしてくれるようにならないかな～、それが今の私の夢です。